

2007年 6月号 Mini-WAN



Mini-WANとは

三河港湾事務所で従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 三谷水産高校の「愛知丸」がサイパンへの海洋演習に出発!
- 「第5回たはらエコ・ガーデンシティ推進会議」開催
- 衣浦港重要港湾指定50周年記念事業開催
- 三河港振興会総会開催
- 「所内非常参集訓練」を実施
- 所内ボーリング大会
- 半田青年会議所主催による衣浦港見学開催
- 「三河湾シーブルー事業」土木学会環境賞授与式
- 「第21回エリカカップヨットレース」in 蒲郡
- 530運動を実施しました
- クールビズ始めました

☆CONTENTS☆



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

本号でも紹介のありますとおり、当事務所が愛知県と共同で進めてきた三河湾シーブルー事業が土木学会の環境賞を受賞しました。国内の権威である土木学会から、「干潟・浅場を造成しながら生態系を回復した先駆的な事例であるとともに、市民と連携して取組を進める等、我が国の沿岸環境再生分野における非常に重要な事業」、という高い評価を頂きました。

この事業では、これまでに三河湾内で失われた干潟・浅場の再生を目指し39箇所、約620haの造成を行いました。その結果、アサリやガザミが増加するという効果も現れ、今年は特にトリガイが豊漁と聞いています。

シーブルー事業については同様の悩みを抱える東京湾の関係者にも注目されており、昨年東京で開催された国際シンポジウムにおいても、三河湾の取り組みがアメリカ東海岸のチェサピーク湾の事例とともに成功例として取り上げられました。現在、新しい造成材の研究を行っているところですが、引き続き、他のお手本となるべくがんばって参ります。

この事業が始まったのはおよそ10年前ですが、当時の方々の実行力に敬意したいと思います。頭で分かっているだけでも行動が伴わないと成果は見えてこないもの。

皆様も、三河湾のために行動を始めませんか。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00~12:00と13:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

○「三河湾シーブルー事業」土木学会環境賞授与式

前号でお知らせしましたとおり、当事務所と愛知県が連携し進めてきた「三河湾シーブルー事業」が、平成18年度土木学会環境賞を受賞し、5月25日の土木学会第93回通常総会にて授与式が行われました。

これは、三河湾の入口となる中山水道航路整備時に発生した良質な砂を、環境改善・水産振興を目的とした干潟・浅場の再生に漁業関係者も含め一丸となって取り組んだことが評価されたものです。

中山水道航路の整備が完了し良質な造成材料の入手が困難な今も、三河湾内では干潟・浅場が不足しています。

今後のシーブルー事業継続を目指し、新たな材料を使用した干潟・浅場再生の可能性について検討を進めてまいります。



授与式を終えて(表彰式会場にて)
右手: 三河港湾事務所 塩田所長
左手: " 赤石計画課長

○「第21回エリカカップヨットレース」in 蒲郡

初夏の風を受け白熱したレースが展開



5月27日、「第21回エリカカップヨットレース」が蒲郡市の沖合いで開催されました。

当日の天候はうす曇でしたが、波は穏やか、風は微風と絶好のレース日和に恵まれました。海上では観覧船に乗船した多くの観客からの声援を受け、参加118艇によるレースが繰り広げられました。熱戦を制したのは「ガスト」号で、通算3回目の優勝を飾りました。

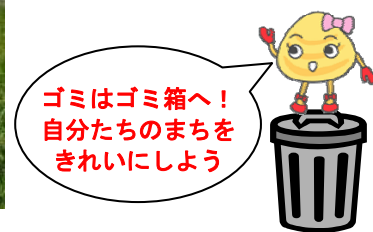
○530運動を実施しました

6月1日、当事務所ではゴミゼロ運動の一環として、午前午後の2班に分けて事務所周辺、付近の公園の清掃活動を行いました。短い時間ではありましたが、あっという間に紙くず、ビン、缶、ペットボトルなどたくさんのゴミが回収されました。

ゴミを捨てることも大切ですがその前段としてゴミを捨てないという当たり前の精神を一人一人が持ち続けることがより大切だとこの活動を通して感じました。自分たちのまちは自分たちの手できれいにしていきましょう!



たくさんのゴミを回収



ゴミはゴミ箱へ!
自分たちのまちは
きれいにしよう

○クールビズ始めました

地球温暖化防止及び省エネルギーのための取組みとして、今年も6月1日よりクールビズ(夏季軽装)の励行を9月30日まで実施しています。エアコンの稼働を停止していたり、温度設定も高めになっておりますので、当事務所にお越しの際には是非クールビズでお越しください。

また、昨年度のCO2排出量実績平成13年度比7.6%削減を踏まえ、今年度目標を平成13年度比8%削減としました。24時間稼働の機器が増えており目標達成は困難な状況ではありますが、職員一同目標達成に向け省エネに心掛けてまいります。

来訪者のみなさまへ

ノーネクタイで
仕事をしています。

「夏季の軽装(クールビズ)」でお越し下さい。
地球温暖化防止と省エネのため、ご理解願います。

実施期間: 6月1日~9月30日
中部地方整備局

○三谷水産高校「愛知丸」がサイパンへの海洋演習に出発！

5月9日、愛知県三谷水産高校の新しい「愛知丸」がサイパン近海での海洋演習に行くため、三河港竹島ふ頭（蒲郡市）から出港しました。出港式では、学校関係者・生徒の父兄・地元住民ら大勢の方々によって、乗組員43名を見送りました。

今後は、機関実習やカツオの一本釣り実習を行い、7月13日に帰港する予定です。その際には、真っ黒に日焼けし、人間的にも一段と成長した生徒の皆さんの勇姿を見ることが出来ると思います。



三谷水産高校愛知丸の出港式



出港！



○「第5回たはらエコ・ガーデンシティ推進会議」開催



たはらエコ・ガーデンシティ構想
(提供：田原市)

5月18日、田原市において第5回たはらエコ・ガーデンシティ推進会議が関係者出席のもと開催されました。この会議では、国土交通省環境行動計画モデル事業として「たはらエコ・ガーデンシティ構想」の環境負荷の低減、地域環境の健全化、地域資源の活用、活発な産業と豊かな生活の実現、世代を超えて引き継ぐ地域づくりを目標に主要7プロジェクト19事業の計画策定及びフォローアップをするものです。田原市では、環境と共生する豊かで持続可能な地域づくりを実現するために各事業を効果的・効率的に推進しています。

三河港田原地区には大型の風力発電が12基あり、これはみなとに立地するものとしては我が国最大級です。環境問題が世界的な関心を集める時代となりました現在、一度、見学されてみてはいかがでしょうか。

○衣浦港重要港湾指定50周年記念事業開催

5月20日、衣浦グランドホテルにおいて、衣浦港重要港湾指定50周年記念事業実行委員会の主催により、国会議員、国、自治体代表や港湾関係者約150人が出席し執り行われました。

記念式典では、衣浦港港湾管理者である神田真秋愛知県知事より「今後も、国や地方と力を合わせ、一層の活性化と振興を図りたい」との挨拶があり、藤野公孝国土交通大臣政務官、大村秀章衆議院議員、日高昇愛知県議会議員よりさらなる衣浦港の発展を祈念するご祝辞をいただきました。

続いて、栢原英郎社団法人日本港湾協会会長より「我が国の港湾の進路」と題した特別記念講演で、今後も変わらぬ港湾の重要性を示唆され、「東アジアとの交流と連携が必要」とのご提案をいただきました。

記念祝賀会では、鈴木政二参議院議員、伊藤忠彦衆議院議員、小林秀央愛知県議会議員よりご祝辞をいただき、盛況のうち記念事業が終了しました。



中央：藤野 公孝 国土交通大臣政務官



栢原 秀郎 (社)日本港湾協会会長

○三河港振興会総会開催

5月24日、豊橋市役所において、三河港振興会総会（会長：早川勝豊橋市長）が開催され、特定港指定10周年記念式典等三河港の総合的な発展及び地域産業の振興発展に寄与することを目的とした平成19年度事業計画が承認されました。



早川 勝 豊橋市長



佐原 光一 中部地方整備局副局長

三河港周辺地域産業幹線道路ビジョン



「東海ものづくり回廊」を支えるはしご状幹線道路網概念図

来賓祝辞において、中部地方整備局の佐原光一副局長が、「地域が元気な時にどのような社会資本を後世に残せるかが重要である」と港湾計画改訂へのアドバイスをを行い、その後、「三河港周辺地域産業幹線道路ビジョン」をテーマとした講演会で、(社)東三河地域研究センター金子常務理事は、国道23号バイパスを基軸とした「はしご状幹線道路網形成」について説明し、その整備段階における円滑な物流を支える道路網整備のあり方を提唱しました。

○「所内非常参集訓練」を実施

5月22・24日の両日、「所内非常参集訓練」を実施しました。この訓練は、職員の防災意識と危機管理意識の高揚を図るため実施したもので、災害発生後公共交通機関が途絶したとの想定のもと、職員が徒歩、自転車及びバイクにより、勤務地又は最寄の中部地方整備局の事務所等へ参集しました。このうち、豊橋市高師町の西口宿舎入居の職員は、事務所までの12kmの道のりを自転車で45分から1時間かけて参集し、普段の自動車通勤では気がつかなかった、災害時に支障となると思われる箇所を発見するなど有意義な訓練となりました。



自転車で参集した職員

○所内ボーリング大会

5月25日、職場のレクリエーションとして、有志によるボーリング大会を開催しました。集めた参加費で用意した賞品の獲得を目指し真剣勝負！中には、大流行中のボーリングゲームで200オーバーを出したと自信満々に大会に挑んだ者もいましたが、実際のスコアは100未満で、結果はなんと最下位。ゲームと現実との違いに肩を落とす姿も皆の楽しい雰囲気笑いに変え、親睦を深めるよい時間を過ごすことができました。



始球式の様子

○半田青年会議所主催による衣浦港見学開催

5月26日、衣浦港内において港内見学が実施されました。今回の見学会は、「我がふるさとそして海をテーマに半田運河を見つめなおそう」をテーマに半田青年会議所の主催により行われました。参加者した56人は、海から眺める半田運河や衣浦港内や、衣浦港で取り扱われている品目について「こんなものも取り扱っているんだ！」と関心した様子でした。



船内から見学中